



所員紹介

所長挨拶

胆振教育研究所所長 4 年目となりました登別市立富岸小学校長の安宅です。本教育研究所の使命は、胆振管内各小中学校の教育課題に応じた、教育理論と授業実践に関する研究を推進し、その成果を子どもの指導にあたっている現場の先生方に直接還元して、指導方法の改善や教員の資質・能力の向上を図り、胆振の教育の充実・発展に寄与することだと考えております。

今年度も、「共同研究」という形で胆振管内 9 市町 1 2 校の研究委託校・実践校の全面的な協力を得ながら、各関係機関との連携を密にして、管内的な視野に立った各種研修事業を推進することにより、胆振管内の教育の一層の充実に向けて、所員一同、鋭意努力して参ります。

ご支援ご協力をどうぞ宜しくお願いいたします。

- | | | | |
|-------|-------------------|------|-------------------|
| 所長 | 安宅 錦也 (登別市立富岸小学校) | 所員 | 牛島 夏陽 (伊達市立東小学校) |
| 副所長 | 高島 康範 (伊達市立伊達中学校) | 所員 | 齋藤 翼 (白老町立白老小学校) |
| 事務局長 | 宮村 直人 (伊達市立伊達小学校) | 所員 | 増永 真衣 (伊達市立光陵中学校) |
| 事務局次長 | 高橋 賢治 (登別市立富岸小学校) | 所員 | 西多 俊 (登別市立鷺別小学校) |
| 所員 | 岡元 優 (登別市立緑陽中学校) | 事務職員 | 水留 恵美子 |
| 所員 | 村井 淳一 (伊達市立伊達中学校) | | |

所報 いふり

胆振教育研究所

平成29年6月30日 発行

第1号

胆振教育研究所の事業

企画・運営

夏季研修講座

「通常学級における特別支援教育」

カント・レラ

7月27日(木) 実施予定

現職のニーズに応じ、指導力の向上につながる講座を企画していきます。

冬季研修講座

「アイヌ文化講座」

だて歴史の杜カルチャーセンター

1月10日(水) 実施予定

合同委員会

本研究所の研究推進計画の説明や研究委託校・実践校の研究の概要、研修推進の課題・成果について交流していきます。

第1回

5月23日(火) 実施

第2回

11月28日(火) 実施予定

所員訪問

研究委託校

・実践校との連携

研究委託校・実践校の研究にかかわって、共に学び、情報の提供を行います。

共同研究

校内研修

・公開研究への

参加・協力

随時

胆振教育研究所

～所員研修会～
事業の検討・実施
所員10名

～場 所～
カント・レラ (4月～11月)
登別市民会館 (12月～3月)

カント・レラの閉鎖に伴い、年度途中で登別市民会館に場所を移すことになります。

作成・提供

刊行物・紀要

○今日的な教育課題等を踏まえ、日々の教育活動に結び付く実践的な研究を進めています。

○各校の実践により役立つような紀要等の発行に努めてまいります。ぜひ、ご活用ください。

2月 発行予定

研究委託校・実践校の特色ある教育活動や優れた取組、本研究所の活動内容をわかりやすくお伝えしていきます。

ホームページ **随時更新**
<http://www.iburi-education.jp/>

広報活動

教育いぶり **年2回**
所報いぶり **年5回**

支えていただく9市町

- 登別市 ●伊達市 ●豊浦町 ●洞爺湖町
- 壮瞥町 ●白老町 ●安平町 ●厚真町 ●むかわ町

理事会

9市町教育長で構成。研究所の組織運営に関することを決定します。

運営委員会

各市町教育研究会の代表者、胆振教育局、へき地複式教育連盟代表者、社会教育代表者で構成。各事業推した支援など、研究所と各市町や関係機関を結ぶ役割を担っています。必要に応じて開催します。

平成29年度 胆振教育振興事業について

ホンマでっか!? TV
(フジテレビ)
所さん!大変ですよ (NHK) etc.
多数、テレビで活躍中!

開催日程 平成29年11月6日(月)18時30分講演(予定)

開催場所 登別市民会館 大ホール

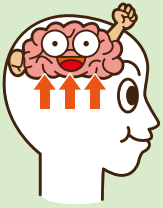
講師 人間性脳科学研究所所長 澤口俊之氏



《経 歴》

- 1982年 北海道大学・理学部生物学科 卒業
京都大学大学院理学研究科・修士課程 入学
- 1984年 同修士課程修了 京都大学大学院理学研究科・博士後期課程 進学
- 1987年 同博士後期課程修了 京都大学理学博士号取得
- 1988年 米国エール大学医学部神経生物学科 ポストドクとして赴任
- 1991年 京都大学霊長類研究所に助手として赴任
- 1993年 科学技術庁・新技術事業団「さきがけ研究21」の兼任研究員
- 1996年 北海道大学文学部心理システム科学講座に助教授として赴任
- 1999年 北海道大学医学研究科高次脳機能学分野 教授就任
- 2006年 人間性脳科学研究所 所長就任
- 2011年 武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部教授就任

講演内容 「夢をかなえる脳」(予定)



脳の発達は早く、8歳で成人のほぼ95%の重さになります。この時期に脳を発達させる教育を含めた適切な環境は最も重要と言えます。

しかし、近年10代でもIQを上げることができ、高齢でも脳を大きくすることができるなど、どの年齢でも脳は鍛えることが可能だと分かっています。

また、HQ(人間知性知能)という最重要な脳力を伸ばすことで、子どもたちの学力と社会力がアップし、かつ個性的で独創的な「人間らしい人間」に成長することができます。

前事務局長 壮警町立壮警中学校 教頭 竹 迫 慎 司



2年間、胆振教育研究所の一員として、他では得ることのできない貴重な経験をさせて頂きました。研究実践校などへの学校訪問、本教育研究所が主催する研修会、管内の小中学校の教員が抱える喫緊の課題へ対応すべく進めている調査課題研究や理論課題研究と多種多様な活動がありました。どれも困難課題にぶつかることがありましたが、多くの教員がそれに取り組む姿勢や経験、知識の豊富さに学ばせていただきました。

胆振教育研究所に対し、ご支援・ご協力をいただきました各教育委員会をはじめ、管内の小中学校の皆様にご心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

前所員 苫小牧市立拓進小学校 教諭 手 塚 隆



1年間という、とても短い期間でしたが、胆振教育研究所の一員として、研修の機会を得られたことは、私の教員人生にとって貴重な経験となりました。学校訪問や研修会への参加、そして機関誌「教育いぶり」の発刊を通して、管内の多くの先生方との出会いがありました。

その度に、子どもの成長を願う先生方の熱心な姿勢や、研修に向かう姿など、多くの点に感銘を受け学ばせていただくことができました。

今後は、所員で得た経験を生かし、胆振管内の教育の充実発展に寄与できるよう努めてまいります。大変お世話になりました。

研究所
退任者
挨拶

■発行所 胆振教育研究所 TEL・FAX 0143-80-3100 ホームページ <http://www.iburi-education.jp/>
〒059-0551 登別市登別温泉町123-1 のぼりべつ文化交流館カント・レラ2階

■発行者 安宅 錦也

■印刷所 (有)村上印刷 伊達市錦町95-1 TEL0142-23-2625 E-mail murakamiprinting@amber.plala.or.jp

所報
いぶり